



平成25年4月1日

卓話 『ワインはウソをつく』

グラフィック・デザイナー

麴谷 宏 様

こんにちは。「ワインは嘘をつく」という表題は嘘です。今日は4月1日ですから。本当はワインと遊ぶというお話をしようと思います。

私は若い頃フランスに暫らくおましてワインが好きになりました。ワインはボトルのラベル、エチケットを見れば誰がいつどこで何をどういうふうにしたかが全て分かるようになっていそうですね。うまいシステムです。帰ってきてすぐ牛乳のパッケージのデザインの仕事をいただきました。僕はそのパッケージを見ればどのようにこれがいものか分かるようにしたいと思って、ワインのエチケットの話を皆さんにして、「成分無調整」という言葉を書き込みました。成分無調整は当時、世界では当たり前だったんですが、日本では法定数字に合わせて余分な乳脂肪分を取った不思議な商品が流通していたんです。そのあと無印良品の企画に当たってパッケージやロゴのデザインを担当したときも、これがどういうものでなぜ安くなるのかが分かるようにしたいと考えて成功しました。

そんなふうによくいったのでワインのために何かしたいと考えていたら、ボージョレーヌーボーというワインが日本では売れないので何かアイデアはないかという相談があったんですね。あれはブルゴーニュ地方の一番南のボージョレー地区のワインで、シーズンの最初に摘んだブドウで促成したものです。その年のブドウの収穫を祝うという意味もあり、フレッシュでなかなか美味しいのですが、それまで白地に黒い文字だけのエチケットでした。僕はそれをカラフルなものにしました。

それとパリではヌーボーの解禁日にみんなで集まってワイワイ騒ぎながら夜中の解禁を待っていたのを思い出して、フランス人が1年間待っているワインを、日本人は7時間も先に飲めるって話をテレビやラジオでしたんです。それで火がついて本当に日本はボージョレーヌーボーがどの国よりも売れる国になってしまいました。それでフランス政府から勲章をいただくことになり、少しはお返しできたと思います。

このように日本で広まったワインを日常の中で楽しむ方法はないかと思い、長い間やっている俳句に詠み込んでみました。勲章をいただいたとき戯れて「シャンパーニュ 捧げて遠見の桜かな」とやっただけです。賛同してくれる人がいて、ワインだけを詠む句会を始めました。結構面白いんです。五七五の中に季語もワインの名前も詠み込むのは難しいですが、ワインそのものが季語になれば少し楽になるんですね。例えばホットワイン、フランス語でヴァン・ショー (vin chaud)。これは冬の季語になるので、例えば「ヴァン・ショーを手に片言の立ち話」とやれば、寒いブルゴーニュの冬にヴァン・ショーを飲みながら片言のフランス語をやっているという情景で、俳味が出ると思います。

日本の文化とワインを結んで、新しい楽しみを作る試みを一度試していただけたらと思います。ありがとうございました。

